



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2024年4月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新年度が始まりました。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。
今月号から、先月号でご紹介しました2024年度の活動企画について
順に詳細をご案内したいと思います。
今年度も盛りだくさんで充実した内容です。
皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。
写真は、間もなく東北に届けられるどんぐりたちです。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「保育防災サミット」のご案内
2. 「園庭緑化運動」2024年度オンライン6月講座受講者募集開始
3. 「能登半島地震」保育復興支援募金活動報告
4. リレーエッセイ (2024年4月号)

日本郵政グループからのお知らせ

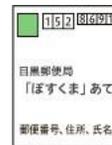
日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NquUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. JP子どもの森づくり運動「保育防災サミット」のご案内

東北の保育者と全国の保育者が共に集い、自然災害から、本当に幼い子どもたちの命を守る仕組みを考える「保育防災サミット」のご案内です。多くの幼い命を預かる保育・幼児教育の現場には、通常の防災のスキルは通用しません。「保育防災」としてのオリジナルの防災の仕組みと保育者の高い防災マインドが必要です。

「保育防災サミット」は、「東日本大震災」から「能登半島地震」まで、今や災害列島化した日本の自然災害の現状を踏まえ、大きな災害を経験した東北の保育者と全国の保育者が実効性のある「保育防災」について考えることを目的に開催します。

繰り返す自然災害の現状を踏まえ、幼い子どもたちの命を守る「保育防災」について考えることは、今もっとも重要な活動です。めったにない機会です。是非、ご参加願います。

[開催概要]

- 1) 開催日：2024年5月22日(水)14：00～17：00
 - 2) 場所：大槌町文化交流センター「おしゃっち」
岩手県上閉伊郡大槌町末広町1-15
 - 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
 - 4) 共催：大槌町
 - 5) 特別協賛：日本郵政グループ
 - 6) 協力：あかまえこども園、とよまねこども園、山田町第一保育所、織笠保育園、つつみこども園
吉里吉里保育園、かまいしこども園、三陸鉄道、他
 - 7) 参加者：東北、及び全国の保育者、保育関係者、保護者
 - 8) 募集人数：先着100名
 - 9) 参加費：無料
 - 10) 申込み方法：右のQRコードからお申し込みください。
- ※ホームページからもお申し込みいただけます。



[基調講演講師]
釜石小学校元校長
渡邊 真龍氏



[開催内容]

●基調講演	元釜石小学校校長 渡邊 真龍氏 ～「3.11」の教訓に学ぶ保育防災の核心は「心の教育」～
●保育防災講座	消防庁アドバイザー、タフ・ジャパン代表 鎌田 修広氏
●事例発表	あかまえこども園（宮古市）、とよまねこども園（山田町）、つつみこども園（大槌町）、大野幼稚園（福井県）、新宿こだま保育園（東京都）
●パネルディスカッション	○パネラー：大槌町長、渡邊氏、鎌田氏 つつみこども園 園長、新宿こだま保育園担当者 ○コーディネーター：子森ネット 塚原代表

2. 「園庭緑化運動」2024年度オンライン6月講座受講者募集開始

1) 開催趣旨

J P 子どもの森づくり運動では、今年も「園庭緑化運動」の普及を目的に、「国際校庭園庭連合日本支部」との共催で、園庭緑化・自然化をテーマにすぐれた研究や活動を実践されておられる方々にご出講いただき、多様な園庭づくりの事例を学ぶオンライン講座を今年も、6月、8月、10月の年3回開催します。

まずは6月講座の受講受付を開始しました。受講者数が限定されています。ご希望の方は早めのお申込みをおすすめします。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2) 募集概要

- 開催日：2024年6月19日(水)14:00-16:00
- 募集人数：先着30名 ●参加費：無料
- 申し込み方法：右のQRコードからお申し込みいただけます。
- 申し込み締切：2024年6月10日(月)



3) 開催内容

講座名	講師	講師近影
「園庭緑化運動」2024年度6月講座 ●テーマ 園庭で樹木と出会うことから育まれる ものとは～「園庭に木を植える」園庭 緑化運動5周年とともに	●講師名 仙田 考 (せんだ こう) 氏 田園調布学園大学大学院 人間学 研究科 子ども人間学専攻 准教授 国際校庭園庭連合日本支部代表	

3. 「能登半島地震」保育復興支援募金活動報告

●JP子どもの森づくり運動では、能登半島地震の復興支援活動として、奥能登穴水町の「平和こども園」さんの保育復興支援募金活動に取り組んでいます。

●同園は、自園も大きな被害を受けながら、地震発生直後より、園の災害備蓄品を拠出し、地域の人々を受け入れる地域の避難所として活動されておられました。避難所としての活動は終了し、保育の復興活動に取り組み初めておられますが、被害にあった施設の復旧には莫大な費用がかかります。

●そんな事情を踏まえ、JP子どもの森づくり運動では微力ながら保育復興支援募金を募っております。3月1日に第1回目の募金を振込みましたが、4月23日(火)に塚原代表が同園を訪れ、2回目の募金を日吉園長にお届けしました。皆様のご協力で御礼申し上げます。



日吉園長（右）と子森ネット塚原代表（左）

4. リレーエッセイ (2024年4月号)

今月号よりリレーエッセイの新しいシリーズが始まります。1年間4人の方に「非認知能力を育む“遊び”」をテーマにご執筆いただきます。4月から6月の執筆者は、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会の関戸代表です。楽しみです。

遊びと育ちの関係

NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹



みなさん、はじめまして。関戸博樹と申します。大学卒業から現在までの20年間を冒険遊び場（プレーパーク）を中心に子どもの遊び場づくりを行うプレイワーカーとして仕事をしてきました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回は「非認知能力を育む“遊び”」という統一テーマのもとでリレーエッセイを書かせていただくのですが、初回は遊びと育ちの関係についての話をしていきたいと思います。

まず、冒頭でお伝えしたい重要なことは、『遊ぶということは何かの能力を育てるための手段ではなく、遊ぶという行為そのものが目的である』という点です。この点を押さえたうえでエッセイの本題を読んでもらえると幸いです。

私たち人間は他の動物と比べるととても未熟な状態で生まれますが、それは人間の生物としての秀でた部分である「脳の力」を伸ばすことと関連しています。脳の発達子ども期の長さと同比例していると言われており、子ども期が長い動物ほど脳が発達するのです。

また、それぞれの動物がする遊びは、成体になり生き延びるために必要な能力を獲得することにつながっています。人間の子どもの遊びは身体感覚、社会性、手先の器用さなど多岐にわたり、複雑な遊びを行っているのです。



しかし、これからの能力の獲得は遊んだことの結果であり、「遊んだ結果として育つ、それぞれの非認知能力」とも言えるでしょう。親心は理解できますが、ついつい「非認知能力を伸ばすための遊びって何がおススメですか！？」となってしまふことで、子ども自身が育ちたい方向にむかって遊ぶことができなくなってしまうのです。

「今日は手先を器用にしたいから木工をしようかな！」と思う子どもはいませんし、「よーし、体幹を鍛えるために木登りをするぞ！」と思う子どももいないのです。遊ぶことは「いいこと思いついた！」と感情が動き、やってみたいことに挑戦するために身体感覚を使います。この一連の流れは、感情を司る「大脳辺縁系」と身体感覚を司る「脳幹」という2つの部位が関係しています。この2つの脳こそ、『認知の脳である「大脳新皮質」には非ず』ということで、非認知の脳と名づけられており、非認知能力に関係しています。

そうです。「いいことを思いつき、やってみたいことに挑戦する」とは、まさに「遊び」です。次回は、「遊び」って何？ということで、遊びを深掘りしていこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

※執筆者紹介

NPO法人日本冒険遊び場づくり協会代表。こども家庭庁こどもの居場所部会委員。大学卒業後、渋谷はるのおがわプレーパークの常駐プレーリーダーとして8年間従事。その後、2年間主夫として長男の子育てを経験する。現在はフリーランスになり、様々な遊び環境づくりを中心に人材育成なども行っている。2男1女の父。

